



きのくに科学オリンピックに参加しました！

10月14日（土）、11月5日（日）、科学の甲子園全国大会の和歌山予選にあたる「きのくに科学オリンピック」が開催され、本校から有志の3チームが参加しました。まず、10月14日に「筆記競技」が行われました。理科（物理、化学、生物、地学）、数学、情報に関する知識を問う問題及び知識の活用について問う問題で競います。その内容には、授業でまだ習っていない範囲も含まれています。続いて、11月5日に「総合競技」が行われました。科学に関する知識だけでなく、その知識をどう活用し、実際にどう具現化するのが競われました。総合競技では2年生のチームが第1位となりました。筆記競技と総合競技の総合結果は12月に発表とのことです。優勝し、その力を全国で披露できることを期待しています。



おもしろ科学まつり和歌山大会に出展しました！

11月5日（日）、和歌山大学にて「青少年のための科学の祭典2023おもしろ科学まつり和歌山大会」が開催されました。本校からは2年生普通科から佐山優衣さん、田中瑠詩さん、園愛弓さん、鶴見春香さん、2年生か環境科学科から北田翔太さん、園田理沙さん、揚塩日葵さんの計7名が参加しました。このおもしろ科学まつりでは、若い世代に様々な実体験を通して多くの科学やものづくりの楽しさに触れることを目的としています。本校からは、力のつり合いを応用したフィジクスコンテストを2つ（「1本のくぎにどれだけくぎをのせられるか」と「スチール板をバランスよくのせてどれだけ机の端からせり出せるか」と「翼果を模して作成し、揚力の発生を体感できる」コーナー）を出展しました。当日は2556人の参加し、本校のブースも終始大盛況でした。フィジクスコンテストでは、記録に挑戦するために工夫を凝らしながら何度もチャレンジした参加者も沢山いました。中には、くぎをのせるイベントを体験して、「このくぎをのせるのが一番楽しかった」と言ってくれる小学生くらいの男の子もいました。参加した揚塩日葵さんは、「保護者や子どもに積極的に話しかけたり、分かりやすい言葉を使ってルール説明したりするなどの工夫をして取り組んだ。また、目線を合わせて、目を見て話すことの重要性や言葉だけでなく、実際にやってみせることの重要性をこの祭りに参加して学ぶことができた。子ども達は、この体験を通して、科学の仕組みを感覚的にも理解でき、身近な自然に興味を持ってくれたのではないかと語りました。

